

第3回 懇談会議事要旨

平成19年2月23日

中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

第3回 千代川の今後を考える学識懇談会 議事要旨

日時：平成19年1月25日 14:00～16:00

場所：ホープスターとっとり 7階 銀河

要旨：下表のとおり

表-1 意見とその対応(その1)

意見及び質問	事務局の回答及び対応
1. 治水	
<ul style="list-style-type: none"> ・ S54年から現在まで30年近く経過していますが、土地利用の変化に伴い流出状況が変化していると思いますが、S54年洪水の対象というのは、降雨形態を同じにして想定しているのか、実際に流れた流量を想定しているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ S54年の雨を降らせて、現況の土地利用状況の係数を入れて流量を計算しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ S54年ぐらいの降雨があったとき、現在の状況では行徳地点でどれだけの流量が出てくるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流出計算をした結果、実績流量と同程度の流量(4,260m³/s)でした。
2. 環境	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 治水の具体的な提案に比べ環境がかなり見劣りするように思う。環境についても具体的な進め方をビジョンとして出しておく必要があるのでは？ ・ 治水、利水を考えて手を加える場合、保全に対して大きく分けて2つの取り組みがあると思う。 <ol style="list-style-type: none"> ① 貴重な生物、重要種がいる場をスポットと考えて、保全するとか、場合によっては復元する。 ② 川全体について、生態系の循環が守られるような方法で、多自然川づくり等の工法を考えていく ・ 原案にもう少し具体性のある文言を入れることが出来れば良いのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮ノ下の低水路、千代川での木工沈床など、現在でも専門分野の先生や漁協等と連携して行っています。原案に具体的に記載するかどうかにつきましては、検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の動物、植物に偏るだけでなく、生態系として柔軟に考えていただきたい。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 潮止め堰ができて、野坂川には魚が上がってこなくなった。その原因は魚道が右岸側しかついていないからではないかと思っている。魚道を付ける場合は両岸に付けるべきだと思う。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料-2の25ページにある環境の記載について、「可能な限り保全する」とありますが、その表現が事業の限界なのかと思うのですが、ぜひとも、記載内容についても大きく取り上げていただきたい。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚道の構造はいろいろな魚(魚だけとは限らないが)が行き来できるようにすれば良い。堰の改修時には是非注意してもらいたい。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 洪水に対して、コンクリート護岸、石垣などで保護する方法がありますが、竹とか柳類も複合的に使うなどして、積極的に取り入れてみては。それについては区域を決めてモデルケースとして調査してみてもどうでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柳類などいろいろな効果があるということですので、そのような取り組みも少しずつ行っていきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境について、いろんな工夫やアイデアがあるので、20年間の計画の比較的早い時期にこのような議論をするような内容を書き込むことが出来れば、「可能な限り保全する」というところの裏付けとなると思うが。 	—

表-1 意見とその対応(その2)

意見及び質問	事務局の回答及び対応
<ul style="list-style-type: none"> 潮止め堰の上流の河床掘削ですが、全部掘削しないで一部残すなどして、動植物の移動など、生態系に配慮するなど、もう少し踏み込んだ記載にて「可能な限り保全する」というところの裏付けとしてみては。 	-
<ul style="list-style-type: none"> 千代川河口は幅も一定で人工的すぎる。ワンド等、川に凹凸が少ない。 	-
<ul style="list-style-type: none"> 河口の付け替えによりコアジサシの営巣場が姿を消した、秋里潮止堰付近に時期になると集まってきていたがそういうものが回復できればいいと思う。 	-
3. SEA について	
<ul style="list-style-type: none"> 潮止め堰の中州の掘削ですが、全部とってしまって、100%の改変率になっているが、先ほどもまでの議論と関係するが、環境への影響が大きくても全部取るということなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 河床勾配や河床材料などで分けしているセグメントの中では全部喪失することにはなりません、具体的な内容は報告書で説明します。
<ul style="list-style-type: none"> 生態系の問題を全部予測することは出来ないと思うので、一応、概略的な1次素案で良いかもしれないが、今後何年かして、工事など行ったことに対して、評価する方法を考えないといけないと思う。 	-
<ul style="list-style-type: none"> 1 ページの表 1.1 で環境要素に樹木の伐採が対象とならないとなっているのは問題がある。 	-
<ul style="list-style-type: none"> 伐採のことについて、少なくともそこを生活の場としている生き物たちの生活史を考えて工事の時期を定めて欲しい。鳥であれば、繁殖が終わった後に工事をするようにする。 	-
<ul style="list-style-type: none"> 堤防の嵩上げも景観の問題があるので、対象外なのはおかしいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> この SEA は全国一律の試行で、非常に地域全体にわたって重大な影響を及ぼすようなものを基本的に対象にしています。
<ul style="list-style-type: none"> 全国一律のやり方ではなく、千代川でやるなら千代川の特長も踏まえ検討するべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> この問題については内部で議論します。
<ul style="list-style-type: none"> 何年かに1回は追跡調査をしていかないといけないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 分析報告書には文言を入れます。
<ul style="list-style-type: none"> セグメント毎に分析するとのことだが、生物は大きく移動する。例えば幼生と成体では生息する場所が異なる。生物の生活史など、時間的・空間的な考えも考慮に入れる方向性でお願いしたい。 そのために、専門の先生方に意見を伺うようにすれば良いと思う。 	-
<ul style="list-style-type: none"> 資料-2の12ページで、「市民生活」とあるが、市街地にすんでいる人だけというイメージがあるので、流域にすむ人たちを対象にした表現にしていただきたい。あと、「鳥取の発展」も同様で、表現に十分注意して欲しい。 	そのように修正します。
4. その他	
<ul style="list-style-type: none"> 次回懇談会は2/23(金)14:00~16:00とする。 	